

環境マネジメントシステム導入報告書

( 宛 先 ) 京 都 府 知 事		平成24年 7月 30 日
住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府乙訓郡大山崎町小泉1		氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 日立マクセル株式会社 京都地区 経営管理本部 統括本部長 常務取締役 中山 雅視
環境マネジメントシステムの名称		ISO14001:2004・JISQ14001:2004
適 用 範 囲	情報メディア及び材料・デバイス・電器製品の開発、設計、製造 と販売の関連サービス	
導 入 年 月 日	1997 年 12 月 24 日	
認 証 番 号	EC97J1148	
基 本 方 針	恵み豊かな地球を次世代へ ①環境マインド&グローバル環境経営 ②次世代製品とサービスの提供 ③環境に高いレベルで配慮した工場とオフィス ④ステークホルダーとの環境協働	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標 (以下「目標」という。)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CO2排出量を30%以上削減する</li> <li>・ 生産高CO2原単位を16%以上削減する (基準年:2005年度) (目標値 エンジー+3%, マケMG15%) (基準年:1990年度) (目標値 エンジー-35%, マケMG 30%)</li> <li>・ 生産高輸送エネルギー原単位を14%以上削減する (基準年:2006年度) (目標値 エンジー-33%, マケMG +12%)</li> <li>・ 生産高輸送エネルギー原単位を14%以上削減する (基準年:2006年度) (目標値 エンジー-33%, マケMG +12%)</li> <li>・ 生産高廃棄物等発生量原単位を17%以上削減 (基準年:2005年) (目標値 エンジー-15%, マケMG 4%)</li> </ul>	
目標を達成するための取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電力・都市ガス</li> <li>・ 重油の使用</li> <li>・ CO2の排出</li> <li>・ CO2排出量管理</li> <li>・ 輸送時のエネルギー管理</li> <li>・ 廃棄物等発生量の管理</li> <li>・ 電子マニフェスト推進</li> </ul>	
目標を達成するための取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子マニフェスト発行率の推進</li> <li>・ 省電力によるCO2排出量抑制</li> <li>・ 重油の使用量削減</li> </ul>	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	過去の廃棄物の処理が発生し、廃棄物発生量が増加しているため、今後の挽回を図る。 その他については計画通りに取り組むことができている。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	管理体制に後指摘事項を発見したが、改善し問題はない。 関連法規の遵守状況について1ヶ月に1回の確認は継続中であり、これまで違反及び行政当局からの指摘はなかった。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	評価・見直しの必要性については、原則として1年に1回検討している。 平成22年度は、現行の目標及び取組内容により一定の成果が見られたことから、23年度も同一のシステムにより運用した。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。